

平泉

世界遺産の観光振興を学ぶ

義経ゆかりの
平泉町で行政調査

5月2日と3日、岩手県平泉町で観光振興の議会行政調査を行いました。



政調査を行いました。平泉町を調査地に選んだのは、平泉町長が昨年の義経まつりに来町したこと、平泉町の青木議長と八島議長が北海道東北地区町村議会議長会で交流があったこと、平泉の藤原軍が築いた阿津賀志山防塁があることなど多くの交流があるためです。

震災の影響と対応

平泉町では、町、中尊寺、毛越寺、観光協会などが連携し、観光客を誘致しています。

東日本大震災後は修学旅行などが激減しましたが、各学校を訪問するなどの活

平泉町の観光振興を研修

(平泉町役場)

動を続け、少しずつ回復しているとのことでした。

受け入れ体制の充実

観光客の受け入れは、巡回バスや語り部タクシーの運行、英語や中国語を話せる職員の配置など充実していました。

また、景観条例や屋外広告物条例を制定し、世界遺産平泉のイメージをくずさないように配慮されていました。

藤原まつり行列を見学

当日は、平泉町の一大イベント「藤原まつり」が毛越寺で行われ、20万人もの人並みやお姫様や弁慶などの姿



藤原まつり行列を桟敷席で観覧(平泉町)

をした行列は、とても壮大でした。

町独自の義経まつりに

当町の義経まつりも平泉町や相馬野馬追いの協力を得て進めれば、国見町独自

のまつりができるのではないかと思います。

今回の調査は、平泉町議会との交流会など両町の親交を深める大変よい機会になったと思います。

(報告者 渋谷福重)

ニセコ

「住民参加」と「情報共有」を 先進町に学ぶ

まちづくり基本 条例のニセコ町を 行政調査

6月30日、北海道ニセコ町で議会行政調査を行いました。

ニセコ町とは、町長や町職員が早くから交流を続けてきました。

昨年7月には、ニセコ町議会が行政調査で当町を訪



ニセコ町で基本条例などを研修(ニセコ町役場)

れ、11月には、両町が災害時相互応援協定を結ぶなど、つながりが強くなっています。

ニセコ町までは、新千歳空港から車で2時間以上もかかり、交通が不便ですが、人口が増えていると聞き、疑問に思っていました。

ニセコ町は、平成13年に全国に先がけて「まちづくり基本条例」を制定しました。

この基本条例は、徹底した「情報共有」と積極的に「住民参加」を進めた結果であり、「住むことが誇りに思える町づくり」を実現していると感じました。

毎年、全世帯にわかりやすい予算の説明書「もっと知りたいことしの仕事」を配布することも、住民の理解を得る工夫のひとつです。

役場では、情報公開を前提とした文書管理を徹底し、情報共有を進めています。

羊蹄山を背に記念撮影
(ニセコ町有島記念館)



した。

ほかの特徴は、海外からスキー客が毎年50万人も訪れ、その中には移住する人もいるため、人口が増加していることです。

ニセコ町は、基本条例による住民の強い結びつきと雪を活かした町民総参加のまちづくりで、交通の不便さを補う魅力のある町だと感じました。

議会行政調査後、ニセコ町議会と交流会を開催し、親交を深めることができました。

(報告者 村上正勝)

江差

歴史を活かしたまちづくり 17年の苦勞を学ぶ

歴史まちづくりを 江差町で行政調査

7月1日、北海道の南端に位置する江差町で議会行政調査を行いました。

江差町は、江戸時代から明治時代まで続いた北前船による交易やニシン漁で栄えた港町で、民謡の江差追分で知られています。

歴史を活かしたまちづく

りは、平成元年に着手し、17年の歳月と約100億円をかけ、歴まち地区「いにしえ街道」を完成させました。

この「いにしえ街道」には、明治初期からのヒノキ材やニシンの取り引きに関連した問屋・蔵・商家・町屋、それに社寺などの歴史的建造物や史跡・旧跡が数多く残されています。

また、完成までに、300回を超える町民と徹底した議論や対話をしたと聞き、議会や職員の苦勞が大きかったことが想像できました。

江差の町並みは、どこか当町藤田宿に似た感じがあり、江差町を参考に、町民と議会、行政が一体になって歴史を活かしたまちづくりに取り組まなければならないと思います。

(報告者 井砂善榮)



歴史的建造物が並ぶ街並みを調査
(江差町いにしえ街道)